

「中秋の名月」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

旧暦 8 月 15 日の月を「中秋の名月」といい、古来から「月見の月」として愛でられていた。旧暦(太陰暦)は、新月の日が「月立ち」つまり「8 月 1 日(ついたち)」で、その 14 日後の 8 月 15 日が「中秋の名月」である。中秋とは「7・8・9 月の真ん中」という意味である。また、中秋の名月は現在の暦の 9 月とは限らず、最も早い年で 9 月 7 日、最も遅い年で 10 月 8 日と、一ヶ月もの幅がある。

旧暦の 8 月 15 日の「中秋の名月」は、満月に近い形状(月相)の月にはなるが、必ずしも完全な満月にはならない。むしろ中秋の名月と満月は一致しない年のほうが多い。これは月の公転角速度が一定でない為、月齢(新月からの日数)と月相(実際の月の形状)が一致しない為だ。旧暦はあくまでも新月からの日数で日付を数えていたので、実際の月の形状とは無関係に日付が決まっていたのだ。

今年(2021 年 9 月 21 日)の中秋の名月は、珍しく満月の日と一致したので、何日か前から話題になっていた。しかし、低気圧の接近で関東地方の天気はあまり良くなく、期待はしていなかった。



私は文京区小日向にある、行きつけの小さなレストランの前で月を待っていた。19 時過ぎ、やっと雲の隙間から満月が顔を出し始めた。風は穏やかだったが、月にかかった雲は少しずつはれて、19 時 20 分頃、ついに満月が完全に姿を現した。



中秋の名月
2021_0921_1920/C.Tanaka
文京区小日向キッチンこやま前

実はこの日の完全な満月(月相 14 の瞬間)は、午前 8:55(日本標準時)だった。この時刻、日本では月は沈んでいて、「真の満月」は見えなかったことになる。写真は約 10 時間後の月で、すでに月の右上(西側)がわずかにかけ始めていることがわかる。



快晴の夜の満月は変化がなくて面白くない。しかしこの夜は、層積雲(うね雲)、高積雲(ひつじ雲)、高層雲(おぼろ雲)など、月にさまざまな雲がかかっていた。写真は卒業生が送ってくれたものだが、満月に高積雲がかかり、虹色の「月光環」が見えている。風景も写っていて、実に美しい写真である。